

平成 24 年度 事業報告書

一般財団法人日本自動車研究所

目 次

1. 法人の概況	1
1.1 設立年月日	1
1.2 定款に定める目的	1
1.3 定款に定める事業	1
1.4 賛助会員に関する事項	1
1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況	1
1.6 評議員、役員等に関する事項.....	2
1.7 職員等に関する事項.....	2
1.8 評議員会、理事会に関する事項.....	2
2. 事業の状況	2
2.1 実施事業	2
2.1.1 基礎研究（自主的な研究）	2
2.1.2 総合研究（官公庁の受託事業・補助事業）	3
2.2 その他事業.....	3
2.2.1 研究・試験事業.....	4
2.2.2 施設・設備の運用事業	5
2.2.3 認証事業（審査及び登録事業）	5
2.2.4 JNX 事業	5
2.3 法人運営	5
2.4 重要な契約に関する事項.....	6
2.5 正味財産増減の状況及び財産の増減の推移	6

附属明細書

1. 法人の概況

1.1 設立年月日

昭和 36 (1961) 年 4 月 7 日

1.2 定款に定める目的

この法人は、自動車に関する研究を通じて、自動車及び関連分野の総合的、長期的技術の向上を図るとともに、エネルギー資源の適正な利用の増進に資し、もって産業の健全な発展と国民生活の向上に貢献することを目的とする。

1.3 定款に定める事業

この法人は、定款に定める目的を達成するため、自動車及び関連分野に関する次の事業を行う。

- (1) 基礎的な調査、研究及び技術開発
 - (2) 環境、エネルギー、安全及び情報・電子技術の調査、研究及び技術開発
 - (3) 標準化の推進及び基準の設定への協力
 - (4) 試験及び評価
 - (5) 技術協力、技術指導及び人材育成
 - (6) 情報の収集及び成果の普及・啓発
 - (7) 所要施設・設備の運用
 - (8) 国内外の規格に基づくマネジメントシステムの審査及び登録
 - (9) 電子商取引のための共通のネットワークシステムの提供
 - (10) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- これらの事業は、国内又は海外において行うものとする。

1.4 賛助会員に関する事項

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

区 分	賛助会員数
財団運営維持	124
一 般	78
団 体	12
合 計	214

1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区芝大門一丁目 1 番 30 号

従たる事務所：茨城県つくば市大字苜間 2530 番地

茨城県東茨城郡城里町大字小坂字高辺多 1328 番 23

1.6 評議員、役員等に関する事項

附属明細書 1.1「評議員名簿」、1.2「役員等名簿」、1.3「顧問名簿」に示すとおりとなる。

1.7 職員等に関する事項

平成 24 年度期末における職員数は、340 名（平成 23 年度末比増減 -11 名）となる。また、平成 24 年度の組織は、附属明細書 1.4「組織図」に示すとおりとなる。

1.8 評議員会、理事会に関する事項

平成 24 年度に開催した評議員会、理事会は、附属明細書 1.5「評議員会、理事会の議事一覧」に示すとおりとなる。

2. 事業の状況

平成 24 年 4 月 1 日をもって「非営利性が徹底された一般財団法人」へ移行し、法令及び定款を遵守した運営を行った。また、実施事業とその他事業をバランス良く実施することで、公益目的支出計画をほぼ計画通り実施することができた。

研究においては、先進的な研究に取り組むとともに、社会ニーズを的確に捉えた研究を各分野で実施した。経営では、関連企業への情報提供およびニーズ把握に取り組むとともに、更なる経費削減施策に取り組み、経営基盤の安定化を目指した。加えて、近年の社会経済状況が大きな構造転換をしていることを踏まえ、「研究と経営の両立」を達成するために第 4 次長期運営方針を策定した。

2.1 実施事業

自主財源で取り組む基礎研究（自主的な研究）については、研究基盤の維持・発展を目指して取り組んだ。

総合研究（官公庁の受託事業・補助事業）については、公募情報等を注視し、適切に提案・応募を行うことで、研究、試験、調査活動に参画した。本事業の研究成果は論文発表やホームページ、セミナー等を通じて広く一般に公開した。

2.1.1 基礎研究（自主的な研究）

交通事故における脳傷害軽減のため、海外研究機関との共同研究によりシミュレーション・モデルを開発し、脳の傷害発生メカニズムの検討を行った。加えて、事故メカニズム解明に有効なツールとなる JARI-ARV（拡張現実実験車）の開発を行った。また、燃料電池用電極触媒の実使用環境下での構造変化の解析に取り組んだ。自動車の電気・電子システムの機能安全規格 ISO26262 に関しては、関係 26 社によるオールジャパン活動を通して運用に関する知見の共有化を推進した。

2.1.2 総合研究（官公庁の受託事業・補助事業）

環境・エネルギー分野においては、車載蓄電池の電池寿命、充電システムの互換性および電池パックの安全性に関するデータを収集し、国際会議における日本提案に反映した。また、水素中不純物が燃料電池性能に及ぼす影響を明らかにし、国際標準化会議において水素燃料規格の適正化を行った。従来の内燃機関車両について、カタログ燃費と実走行燃費での乖離要因と考えられる走行速度、加速度、エアコン使用などの影響を調査し、ドライバへの実走行燃費向上に資するパンフレットの作成に寄与した。加えて、乗用車排出ガス・燃費試験法、エアコン燃費試験法、大型車燃費試験法および自動車騒音試験法の検討を実施し、国内検討および国際基準調和会議における日本提案に貢献した。

安全分野においては、高齢者、交通弱者対策の視点からの研究を重点課題と捉え、新たな試験・研究ツールや試験方法の検討を進めた。事故実態把握のための医工連携事業や、事故メカニズム解明のために模擬市街路やドライビング・シミュレータを用いた試験・研究等にも取り組んだ。また、車両安全対策検討会等を通して、事故実態を踏まえた車両安全対策の方向性を検討した。ASV 関連事業においては、運転支援システムへのドライバの過信や依存の問題を検討するとともに、運転中の健康起因事故対策に向けたドライバ・モニタリング技術に関する研究を実施した。さらに、自動車アセスメント事業では、新型車 11 車種の各種安全性能評価試験を実施するとともに、予防安全装置（ESC：Electronic Stability Control）や歩行者脚部保護の試験方法に関する研究を実施した。

安全に関する研究成果の新たな応用分野として、生活支援ロボットの安全性試験方法を検討するとともに、関連機関と協力して国際標準化会議に提案し、生活支援ロボット普及のための規格の適正化を進めた。

IT・通信分野においては、交通流の改善と省エネルギー化を目指した「エネルギーITS 推進事業」の最終年度として、自動運転・隊列走行による試乗走行や技術展示会などの「DEMO2013」を開催し、車間距離 4m の隊列走行実用化技術などの成果を広く公開することで社会に貢献した。また、自技会の ITS 標準化委員会活動に積極的に関与し、ITS 協調システムやプローブ情報サービスアーキテクチャに関する国際規格原案を作成するとともに、国際標準化への活動を積極的に推進した。

2.2 その他事業

経営基盤の安定に資するため、関連する業界団体との情報共有や自動車メーカーをはじめとする関連企業への情報提供を行うことで事業拡大に取り組んだ。加えて、関連業界や顧客のニーズを把握することでサービスの改善施策や新たなサービスを開始することで満足度の向上を目指した。

2.2.1 研究・試験事業

環境・エネルギー分野においては、HILS (Hardware In the Loop Simulator) による重量ハイブリッド車の排出ガス、燃費試験法に関する研究を行い、国際基準調和会議において世界統一基準の適正化議論を主導した。また、大型車・小型車・二輪車、ハイブリッド車・電気自動車および自動車用や建設機械用エンジンシステムの評価を行った。加えて、新たに排出ガス試験等に関する ISO17025 試験所認定を取得し、これによりスイス環境局よりスイス独自の建設機械用エンジンの粒子数規制に対する試験機関として認定を受け、認可に必要な試験データの提供も行った。さらに、自動車からの PM2.5 の健康への影響を明らかにするための試験方法や計測手法の検討を行った。また、Hy-SEF (水素・燃料電池自動車の安全評価試験設備) にて、高圧容器や容器附属品の水素充填試験や破裂試験および各種火災試験を実施し、産業界における安全な燃料電池自動車の開発に資する研究を行った。

安全分野においては、高齢者の安全対策への取り組みとして、高齢ドライバーを対象としたドライブ・レコーダのデータ収集を行い、その解析を通して運転特性把握を進めた。また、高齢者の被害軽減のため、インパクトバイオ研究による人体 FE モデルの開発を行った。さらに、重点課題である予防安全の取り組みとして、模擬市街路やドライビング・シミュレータを用いた試験・研究を行い、事故メカニズム解明やドライバー特性の把握等を進めた。

IT・通信分野においては、JARI に蓄積した ITS に関する知見を活用し、道路の維持管理車両の運転操作支援システムに関する調査研究等に取り組んだ。また、自動車の電気・電子システムの機能安全規格 ISO26262 のオールジャパン活動の成果を公開する事で、広く世の中に貢献すると共に、その成果の活用として、英国 MIRA と連携した機能安全教育事業等を本格的に展開した。

新たな取り組みとして、アジア諸国における健全な車社会の構築及びアジアの自動車関連研究機関の相互理解促進を目的とした第 1 回アジア自動車研究所サミット (AAI サミット) を開催した。これにより各研究機関と相互理解をより深めるとともに、研究員の人材交流制度や試験設備の相互活用、技術交流に向けた具体的な取り組みを確認した。

なお、実施事業 (基礎研究、総合研究) およびその他事業 (研究・試験事業) にて実施した研究事業は、附属明細書 2.1 「平成 24 年度研究事業一覧」に示すとおりとなる。また、国内外において発表した論文等は附属明細書 2.2 「平成 24 年度所外発表論文等一覧」に、発表活動における学会表彰の受賞者は附属明細書 2.3 「平成 24 年度学会表彰の受賞者一覧」に示すとおりとなる。

また、産業財産権の出願および実用新案権の実施に関する活動状況を附属明細書 2.4「平成 24 年度産業財産権出願一覧」および 2.5「平成 24 年度実用新案権実施一覧」に示す。さらに、研究所が著作権を有するコンピュータプログラムで外部から要望があり頒布実績のあったものは附属明細書表 2.6「平成 24 年度著作権所有主要コンピュータソフトウェア頒布一覧」に示すとおりとなる。

2.2.2 施設・設備の運用事業

城里テストセンターでは、顧客と緊密な情報交換を行うとともに、安全対策に取り組むことで顧客満足度の向上を図った。また、新規顧客獲得に向けたテストコースの新たな利用提案やテストコース見学会を積極的に行った。加えて、多様なニーズに対応するため、施設設備の改善やサービス向上のためのアンケートを実施した。その一環として、平成 25 年度からテストコースの予約状況情報を提供する予約管理システムを開発し、運用を開始することとした。これらの活動により、コース稼働率を向上させて、計画を上回る利用実績となった。なお、テストコースの外部利用者の使用状況は附属明細書 3.1「平成 24 年度テストコース外部利用者使用状況」に示すとおりとなる。

2.2.3 認証事業（審査及び登録事業）

マネジメントシステム認証事業は事業拡大に取り組んでいるものの、収入は減少傾向にある。ISO39001（道路交通安全マネジメントシステム）が平成 24 年 10 月に規格化され、物流業界、損保業界等が徐々に興味を示してきていることから、審査体制を整備するなど事業化に向け準備を開始した。また、平成 24 年度より開始した EV/PHEV 用普通充電器の製品認証事業の審査及び登録を実施した。

2.2.4 JNX 事業

JNX の普及拡大に注力し、加入会社数の増加を図った。また、自動車業界の部品の受発注において、紙・FAX での受注出荷業務を行っている事業者間の EDI 化を実現する「JNX 共通 EDI サービス」を開発し、平成 24 年 2 月からサービスを開始した。加えて、JNX メンバ専用のメンバーズサイトにおいては、トラフィック情報システム（ネットワーク利用率、遅延状況の検索機能）を再構築し、平成 24 年 6 月から改善したサービスを提供している。

2.3 法人運営

平成 24 年度より「非営利性が徹底された一般財団法人」へ移行し、新制度の下で評議員会、理事会をはじめとする運営を確実に実施した。

JARI の役割・機能を明確にするとともに、「研究と経営の両立」の達成を目指して第 4 次長期運営方針案を策定した。策定にあたっては、学識経験者および有識者で構成される「長期方針懇談会」を設置し、懇談会からの提言を受けて策定した。

加えて、経営基盤の安定に資するため、全所的な横串機能を持つタスクフォースを設置し、自動車メーカーへの積極的な情報提供や経費等の削減施策の検討などに取り組んだ。また、一部遊休地の売却に向けた取り組みを進めた。

広報活動としては、各種イベントを活用するなどして JARI が社会に貢献できる分野を対外的にアピールするとともに、国内外において発表した論文等を研究論文集としてまとめ、研究成果を積極的に発信した。平成 24 年度に刊行した技術刊行物は附属明細書 4.1「平成 24 年度技術刊行物一覧」に示すとおりとなる。また、平成 24 年度の蔵書、資料保有状況は附属明細書 4.2「平成 24 年度蔵書、資料保有状況」に示すとおりとなる。

なお、平成 24 年度の寄付金実績は附属明細書 4.3「平成 24 年度寄付金実績」に示すとおりとなる。

2.4 重要な契約に関する事項

重要な契約に関する事項としては、以下のとおりとなる。また、平成 24 年度に実施した主要な設備導入・工事等は附属明細書 4.4「平成 24 年度主要設備・工事等一覧」に示すとおりとなる。

(1) 重要な委託契約等について

- ・インパクトバイオメカニクスに関する研究（人体 FE モデル開発）他
- ・平成 24 年度次世代エネルギー・社会システム実証事業費補助金
II-2. 蓄電複合システム等共通基盤技術国際標準化研究開発事業
（車載蓄電池の性能評価手法の技術開発）

(2) 重要な設備投資について

- ・車載計測器（OVDAS）の購入
- ・土地等に関する権利の取得
- ・所内パソコン更新リース

2.5 正味財産増減の状況及び財産の増減の推移

(単位：百万円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
当期経常増減額	△1,105	△1,257	△614	△39
正味財産期末残高	21,170	19,687	19,420	19,453

附属明細書

附属明細書 目次

1.1	評議員名簿	9
1.2	役員等名簿	10
1.3	顧問名簿.....	11
1.4	組織図	12
1.5	評議員会、理事会の議事一覧.....	13
2.1	平成 24 年度研究事業一覧.....	14
2.2	平成 24 年度所外発表論文等一覧	16
2.3	平成 24 年度 学会表彰の受賞者一覧	30
2.4	平成 24 年度産業財産権出願一覧	31
2.5	平成 24 年度実用新案権実施一覧	31
2.6	平成 24 年度著作権所有主要コンピュータソフトウェア頒布一覧.....	31
3.1	平成 24 年度テストコース外部利用者使用状況	32
4.1	平成 24 年度技術刊行物一覧	33
4.2	平成 24 年度蔵書、資料保有状況	33
4.3	平成 24 年度寄付金実績	33
4.4	平成 24 年度主要設備・工事等一覧.....	34
参考	: 平成 24 年度正味財産増減計算書（予算決算比較表）	36

1.1 評議員名簿

評議員（16人）

（平成25年3月31日現在）

評議員会 会長	岡 本 一 雄	(公社)自動車技術会 元会長 (日野自動車(株) 代表取締役会長)
評議員	川 鍋 智 彦	本田技研工業(株) 取締役 専務執行役員
〃	久 村 春 芳	日産自動車(株) フェロー
〃	山 科 忠	トヨタ自動車研究開発センター(有) 副会長兼社長
〃	小 泉 年 永	(株)リケン 代表取締役会長
〃	信 元 久 隆	曙ブレーキ工業(株) 代表取締役会長兼社長
〃	岩 波 利 光	日本電気(株) 代表取締役 執行役員副社長
〃	大 沼 邦 彦	日立オートモティブシステムズ(株) 取締役社長
〃	小 川 王 幸	(株)日本自動車部品総合研究所 顧問
〃	森 安 俊 紀	(株)東芝 顧問
〃	松 村 幾 敏	J X日鉱日石エネルギー(株) 元顧問
〃	渡 邊 穰	中部電力(株) 取締役専務執行役員 お客さま本部長
〃	石 谷 久	東京大学 名誉教授
〃	桑 原 雅 夫	東北大学大学院 教授
〃	垂 水 尚 志	(公財)鉄道総合技術研究所 理事長
〃	大 聖 泰 弘	早稲田大学 教授

1.2 役員等名簿

理事：16人、監事：2人、会計監査人：1名

(平成25年3月31日現在)

代表理事 理事長	豊田章男	(一社)日本自動車工業会 会長 (トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長)
副理事長	名尾良泰	(一社)日本自動車工業会 副会長・専務理事
代表理事 研究所長	小林敏雄	
代表理事 専務理事	半田茂	
業務執行理事 常務理事	黒田哲平	
業務執行理事	田中利明	
〃	岸田栄二	
〃	吉田泰	
〃	竹内俊作	
理事	天野肇	ITS Japan 専務理事
〃	鎌田実	東京大学 教授
〃	高橋武秀	(一社)日本自動車部品工業会 副会長 専務理事
〃	永田理	(一社)日本自動車工業会 企画部会部会長 (トヨタ自動車(株) 常務役員)
〃	吉田正弘	(一社)日本自動車工業会 企画部会副部会長 (本田技研工業(株) 取締役 執行役員 管理本部長)
〃	堀洋一	東京大学大学院 教授
〃	吉田正寛	JXホールディングス(株) 執行役員
常勤監事	緒方廣己	
監事	高木俊輔	富士重工業株式会社 常勤監査役
会計監査人	優成監査法人	

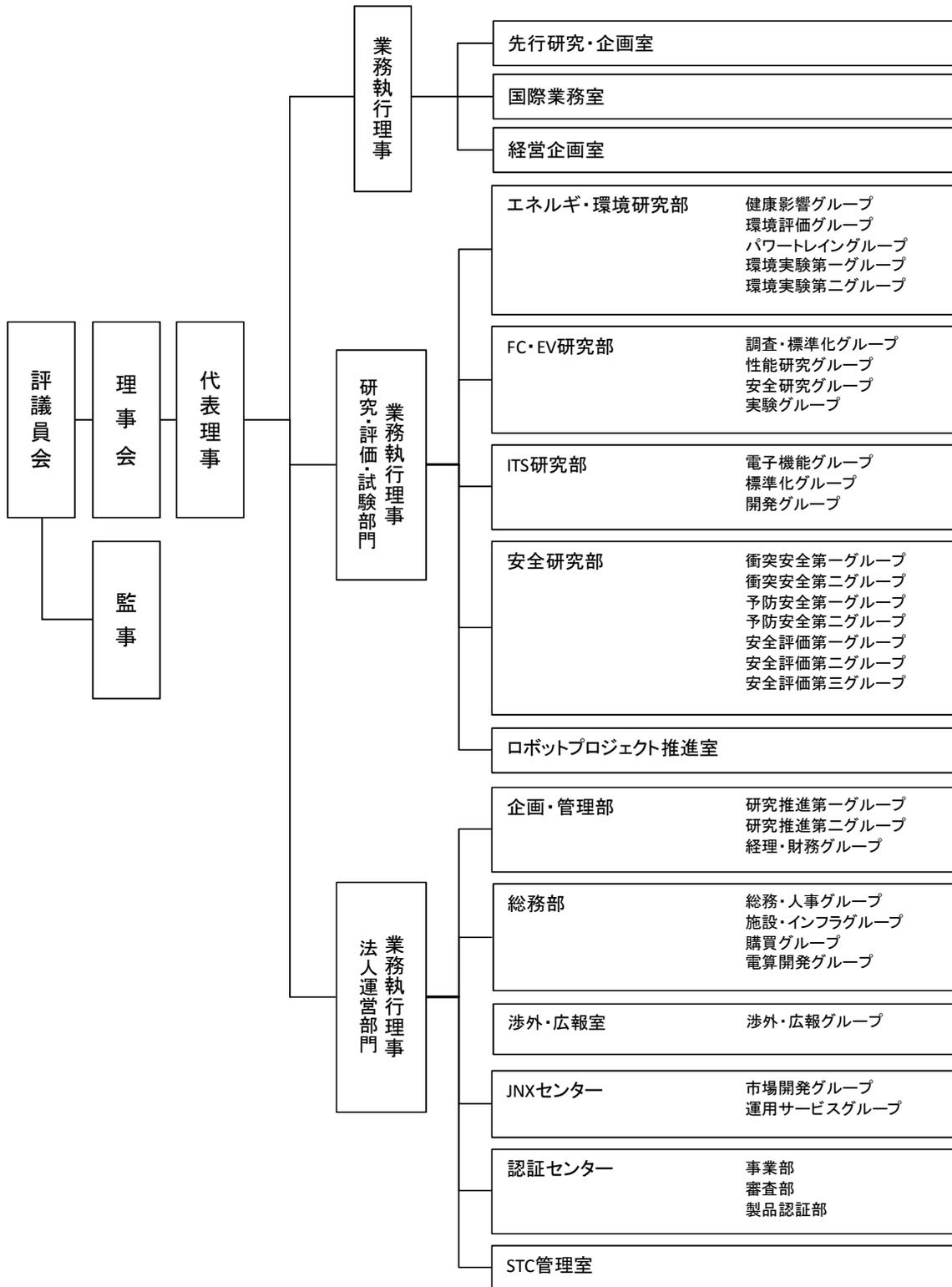
1.3 顧問名簿

顧問：10人

(平成25年3月31日現在)

井口雅一	(財)日本自動車研究所 前副理事長・研究所長
岩崎正視	トヨタ自動車(株) 顧問
奥田碩	(株)国際協力銀行 代表取締役総裁
小枝至	日産自動車(株) 相談役名誉会長
志賀俊之	日産自動車(株) 最高執行責任者
鈴木孝男	三菱ふそうトラック・バス株式会社 取締役会長
張富士夫	トヨタ自動車(株) 代表取締役会長
富永孝雄	(一社)日本自動車工業会 顧問
豊田英二	トヨタ自動車(株) 最高顧問
豊田章一郎	トヨタ自動車(株) 名誉会長

1.4 組織図



1.5 評議員会、理事会の議事一覧

(1) 評議員会

- ◇ 平成 24 年度 定時評議員会（平成 24 年 6 月 4 日）
 - 第 1 号議案 評議員会運営規則（案）の件
 - 第 2 号議案 規程の制定、改定の件
 - 第 3 号議案 平成 23 年度事業報告書（案）の件
 - 第 4 号議案 平成 24 年度事業計画書の件
 - 第 5 号議案 平成 23 年度決算報告書（案）の件
 - 第 6 号議案 公益目的財産額の確定（案）の件
 - 第 7 号議案 平成 24 年度収支予算書の件
 - 第 8 号議案 役員報酬（案）の件
 - 第 9 号議案 理事選任の件

(2) 理事会

- ◇ 平成 24 年度第 1 回理事会（通常）（平成 24 年 5 月 17 日）
 - 第 1 号議案 理事会運営規則（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 23 年度事業報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 23 年度決算報告書（案）の件
 - 第 4 号議案 公益目的財産額の確定（案）の件
 - 第 5 号議案 平成 24 年度事業計画書の件
 - 第 6 号議案 平成 24 年度収支予算書の件
 - 第 7 号議案 規程の制定、改定の件
 - 第 8 号議案 役員等報酬（案）の件
 - 第 9 号議案 理事候補者の推薦の件
 - 第 10 号議案 顧問委嘱の件
 - 第 11 号議案 定時評議員会開催及び議題の件

- ◇ 平成 24 年度第 2 回理事会（臨時）（平成 24 年 6 月 4 日）
 - 第 1 号議案 理事長、専務理事、執行理事の選定の件

- ◇ 平成 24 年度第 3 回理事会（通常）（平成 25 年 3 月 21 日）
 - 第 1 号議案 平成 24 年度運営状況の報告
 - 第 2 号議案 第 4 次長期運営方針（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 25 年度事業計画書（案）の件
 - 第 4 号議案 平成 25 年度収支予算書（案）の件
 - 第 5 号議案 資産活用の件

2.1 平成 24 年度研究事業一覧

課題数の総計：397

実施事業課題数：85

事業	事業内容	研究分野	主な研究課題
実施事業	基礎研究	環境・エネルギー (11 課題)	将来燃費基準導入における CO ₂ 削減効果と費用対効果分析ツールの開発 路上走行による燃費評価方法の基礎検討 実路走行状態におけるタイヤ損失仕事の検討 普通充電器認証試験の実施体制構築
		安全 (9 課題)	Brain injury thresholds: Scaling techniques and experiments JARI-ARV (拡張現実実験車) の製作 プリクラッシュフェースを考慮した衝突に対する評価方法の検討 電気/電子・機能安全規格 ISO26262 の導入に伴う国内運用方法の検討 生活支援ロボットの安全性に関する研究
		IT・通信 (3 課題)	IT・CE 技術の ITS への適用に関する研究
	総合研究	環境・エネルギー (30 課題)	乗用車等の排出ガス・燃費国際調和試験方法 (WLTP) 策定のための検証試験に関する調査 エアコンの燃費影響評価法策定に関する調査 平成 24 年度省エネルギー設備導入等促進事業 (自動車実走行燃料消費情報等提供事業) エネルギーITS 推進事業 国際的に信頼される効果評価方法の確立 セル評価解析の共通基盤技術 燃料電池自動車等に係る国際標準化および規制見直しのための研究開発 車載蓄電池・電動車両等に関する国際標準化および試験法の研究開発 車載蓄電池の性能評価手法の技術開発 実使用環境下における燃料電池電極触媒劣化過程のその場観察
		安全 (29 課題)	平成 24 年度自動車安全対策のマネジメントサイクルの推進に係る調査 車両安全に資するための医工連携による交通事故の詳細調査分析 横滑り防止装置の性能評価に係る調査研究 ドライブレコーダーデータによる錯綜状況の定量的類型化と運転安全性の客観的評価 救急医療体制の整備：緊急自動通報システムを活用した交通事故死傷者低減研究 児童を対象にした実体験学習による効果的な交通安全教育手法の開発 交通安全生涯教育プログラムの開発 高学年児童を核にした生涯教育手法の構築と普及促進 生活支援ロボットの安全性検証手法の研究開発
		IT・通信 (3 課題)	エネルギーITS 推進事業 協調走行 (自動運転) に向けた研究開発 平成 24 年度工業標準化推進事業 (戦略的国際標準化加速事業: ITS の規格化事業)

その他事業課題数：312

事業	事業内容	研究分野	主な研究課題	課題数
その他事業	研究・試験	環境・エネルギー (115 課題)	大気環境、地球温暖化に関する研究・試験 超クリーンディーゼル、NOx 低減、新燃料に関する研究・試験 未規制物質に関する研究・試験 排気ガスの健康影響に関する研究・試験 EV、HEV、FCV に関する研究・試験 道路交通騒音に関する研究・試験 標準化活動に関する研究・試験 社会経済・アジア政策・その他に関する研究・試験	34 19 5 1 38 12 4 2
		安全 (195 課題)	乗員保護、歩行者保護に関する研究・試験 バイオメカニクスに関する研究・試験 交通事故分析、交通事故発生メカニズムに関する研究・試験 材料／構造分析に関する研究・試験 ヒューマンインターフェースに関する研究・試験 電気/電子・機能安全規格 ISO26262 に関する研究・試験 自動車運動性能に関する研究・試験 高齢者対応に関する研究・試験 車両火災に関する研究・試験、その他	84 2 5 16 14 3 52 4 15
		IT・通信 (2 課題)	運転支援システムに関する研究・試験	2

2.2 平成 24 年度所外発表論文等一覧

国内発表(127 件)

発表題名	発表学会等	発表者名
《環境／エネルギー》 [論文]		
(1) ITS 施策評価のための CO2 排出量推計モデルの開発	2012 年 5 月 自動車技術会論文集	林 誠司・米沢 三津夫・木村 真・金成 修一・平井 洋
(2) 重量車の車載型排ガス計測に関する検討(第 2 報) - 実路試験評価法の検討 -	2012 年 6 月 自動車技術会論文集 Vol.43, No.3	相馬 誠一(JARI), 南 利貴 (自工会)
(3) 燃費改善効果における将来乗用車台数推計モデルの開発	2012 年 9 月 自動車技術会論文集	金成 修一・今井 康雄・平井 洋
(4) 大気汚染の累積的・複合的な影響を考慮した暴露反応関数の検討	2012 年 12 月 環境情報科学論文集 26	坂本将吾(中央大学), 澁谷怜史(東京都建設局), 廣田 恵子(JARI), 鹿島茂(中央大学)
(5) プロトン移動反応質量分析法による自動車排出ガス中の有害大気汚染物質オンラインリアルタイム測定の見直し	2013 年 3 月 分析化学誌	秋山 賢一
[講演]		
(1) 炭素安定同位体比計測による有害大気汚染物質の発生源としての自動車の寄与度推定法の研究	2012 年 5 月 自動車技術会 2012 年春季大会	秋山 賢一
(2) 自動車部門における将来技術および統合対策考慮した CO2 排出量推計	2012 年 6 月 第 31 回 エネルギー・資源学会研究発表会	金成 修一
(3) 自動車排出ガス分析の際のアーティファクトの実例紹介	2012 年 6 月 第 318 回ガスクロマトグラフィー研究会	秋山 賢一
(4) 自動車から排出されるニトロ・ジニトロフェノールの測定検討	2012 年 7 月 環境化学討論会	柏倉 桐子・佐々木 左宇介
(5) マススペクトル解析の基礎	2012 年 8 月 第 17 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会	秋山 賢一
(6) 2011 年夏季関東都市・郊外におけるエアロゾル質量スペクトルの PMF 解析	2012 年 8 月 第 29 回エアロゾル科学・技術研究討論会	萩野 浩之
(7) ガスクロ初級講座	2012 年 9 月 JAIMA コンファレンス	秋山 賢一
(8) CAPs 抽出物がラット心筋細胞 H9c2 の遺伝子発現におよぼす影響	2012 年 9 月 第 53 回大気環境学会年会	伊藤 剛(JARI), 小林 隆弘(国際環境研究協会)

(9)	ディーゼル排気粒子の酸化活性における構成成分寄与の解析法の検討	2012年9月 第53回大気環境学会年会	古根村 綾乃(JARI), 阿久津 康生(ジェー・エー・シー), 伊藤 剛(JARI)
(10)	最新ディーゼルエンジン排気の胎仔・新生仔期曝露がマウスの中樞神経系に及ぼす影響	2012年9月 第53回大気環境学会年会	細谷 純一・辺見 愛・古根村 綾乃・伊藤 剛・中島 徹(JARI), 成田 年(星薬科大学), 武田 健(東京理科大学), 香川 順(東京女子医大名誉教授)
(11)	関東地方におけるPM2.5無機イオンの長時間分解同時観測－夏季と初冬季の比較－	2012年9月 第53回大気環境学会年会	米持 真一・長谷川 就一(埼玉県環境科学国際センター), 萩野 浩之(JARI), 熊谷 貴美代・山口 直哉(群馬県衛生環境研究所), 関口 和彦(埼玉大学), 飯島 明宏(高崎経済大学), 速水 洋(電力中央研究所)
(12)	大気汚染物質排出量データベース:JEI-DB(Jatop Emission Inventory - Data Base)の紹介	2012年9月 第53回大気環境学会年会	森川 多津子(JARI), 茶谷 聡(豊田中研), 中塚 誠次(NTT データCCS), 松永 壮(北海道大学)
(13)	アンモニア排出インベントリの構築について 第2報	2012年9月 第53回大気環境学会年会	森川 多津子
(14)	Post-新長期規制適合ディーゼルエンジンからの未規制物質の排出量評価	2012年9月 大気環境学会年会	柏倉 桐子・佐々木 左宇介・利根川 義男
(15)	Air pollution and health effects in large Asian cities A methodology of health effect analysis	2012年9月 環境経済・政策学会 2012年次大会	廣田 恵子(JARI), 坂本将吾(中央大学), 澁谷怜史(東京都 建設局), 鹿島茂(中央大学)
(16)	プレーキパッド有機成分の減速時の変質	2012年9月 日本分析化学会第61年会	秋山 賢一
(17)	エアロゾル質量分析計による最新ディーゼルエンジン排出粒子成分の解析	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	秋山 賢一
(18)	乗用車のエアコン使用時の燃費に関する研究	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	羽二生 隆宏, 松浦 賢
(19)	自動車から排出される有害物質計測の問題点	2012年11月 シンポジウム 自動車と大気環境-環境計測技術の進展	秋山 賢一
(20)	加減速挙動を変化させるITS施策におけるメソ CO2 排出量モデルの構築方法	2012年12月 第11回 ITS シンポジウム 2012	平井 洋・林 誠司・金成 修一・木村 真・米沢 三津夫・中野 麻耶(JARI), 桑原雅夫(東北大学)
(21)	He以外のキャリアーガスによるGC分析の実例	2013年2月 日本分析化学会 第323回ガスクロマトグラフィー研究会	秋山 賢一
[投稿]			
(1)	東京23区におけるエコドライブによるCO2削減効果の検討	2012年4月 生産研究	金成 修一(JARI), 花房 比佐友(アイ・トランスポート・ラボ), 林 誠司, 平井 洋, 木村 真, 米沢 三津夫(JARI), 堀口 良太(アイ・トランスポート・ラボ), 田中 伸治(横国大学),

		大口 敬(東大学), 小根山 裕之(首都大東京), 桑原 雅夫(東北大学)
(2)	日本 LCA 学会第 2 回, 第 3 回工場見学会報告	2012 年 9 月 日本 LCA 学会誌 鈴木 徹也(JARI), 平井真紀子(リコー)
(3)	大気汚染の軽減が健康影響改善に与える影響分析	2012 年 11 月 第 44 回土木計画学研究発表会 澁谷怜史(中央大学), 廣田 恵子(JARI), 坂本将吾・鹿島 茂(中央大学)
《燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車》		
[論文]		
(1)	自動車用リチウムイオン電池の加熱試験法の調査	2013 年 3 月 自動車技術会 論文集 Vol.44, No.2 前田 清隆・高橋 昌志
(2)	衝突試験を模擬した水素燃料車両の車室内の水素濃度測定	2013 年 3 月 自動車技術会 論文集 Vol.44, No.2 田村 陽介・竹内 正幸・三石 洋之
(3)	圧縮水素容器の使用環境負荷試験に関する温調・加圧手順の影響	2013 年 3 月 自動車技術会 論文集 Vol.44, No.2 富岡 純一・木口 和博・田村 陽介・三石 洋之
[講演]		
(1)	高湿度空気雰囲気下における Pt/C 触媒劣化過程の高分解能その場観察	2012 年 5 月 日本顕微鏡学会 第 68 回学術講演会 矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 渡部明・松本弘昭(日立ハイテクノロジーズ), 清水 貴弘・今村 大地(JARI), 上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(2)	電池関連複合ナノ材料の電子顕微鏡解析	2012 年 5 月 第 68 回学術講演会 上野 武夫(山梨大燃料電池ナノ材料研究センター, 日立ハイテクノロジーズ), 矢口 紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村 崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 渡部 明((日立ハイテクノロジーズ), 清水 貴弘・今村 大地(JARI)
(3)	水素漏洩を伴う水素燃料自動車の事故処理を想定した送風の有効性	2012 年 5 月 平成 24 年度日本火災学会研究発表会 田村 陽介・竹内 啓(JARI), 佐藤研二(東邦大学)
(4)	その場観察による市販 Pt/C 触媒の劣化メカニズム解析	2012 年 9 月 燃料電池基盤技術研究懇話会 清水 貴弘・今村 大地(JARI), 矢口紀恵・金村崇・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(5)	リチウムイオン電池の劣化のモデル化に関する研究(第一報)	2012 年 10 月 自動車技術会 2012 年秋季大会 加地 健太郎・田中 謙司・秋元 博路・張 静(東京大学), 今村 大地(JARI)
(6)	衝突試験を模擬した水素燃料車両の車室内の水素濃度計測	2012 年 10 月 自動車技術会 2012 年秋季大会 田村 陽介・竹内 正幸・三石 洋之

(7)	車両縁石衝突時の衝撃値の調査	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	高橋 昌志・高林 勝・竹内 正幸・大塚 宣明・三石 洋之
(8)	自動車用圧縮水素容器の急速充填における容器内温度挙動(第5報)	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	松野 優・高橋 文夫・大塚 宣明・富岡 純一・田村 陽介・三石 洋之
(9)	自動車用リチウムイオン電池の加熱試験法の調査	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	前田 清隆・高橋 昌志
(10)	圧縮水素容器の使用環境負荷試験に関する温調・加圧手順の影響	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	富岡 純一・木口 和博・田村 陽介・三石 洋之
(11)	燃料電池自動車の普及への取り組み	日本真空工業会主催「真空フォーラム2012 本格普及に入る次世代自動車」	赤井 泉明
(12)	自動車用燃料電池の負荷変動時における一酸化炭素の影響	2012年11月 第53回電池討論会	松田 佳之・吉村 昇・清水 貴弘・今村 大地・橋正 好行
(13)	リチウムイオン電池の加熱試験法の調査	2012年11月 第53回電池討論会	前田 清隆・高橋 昌志
(14)	その場観察による自動車用燃料電池電極触媒の劣化解析	2012年11月 日本顕微鏡学会研究部会「環境制御型電子顕微鏡」第3回研究会	清水 貴弘・今村 大地(JARI), 矢口 紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村 崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(15)	電気自動車の普及状況及び今後の展望と充電設備の整備事例及び整備上の留意点	2012年12月 官公庁電気技術連絡協議会	室伏 巧
(16)	加湿・乾燥空気中における電解質被覆したPt/C触媒のその場観察	2013年3月 電気化学会第80回大会	清水 貴弘・今村 大地・吉村 昇(JARI), 矢口 紀恵・金村 崇・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(17)	自動車用燃料電池 MEA の耐久性評価(その3)高耐久触媒を用いた起動停止試験	2013年3月 電気化学会第80回大会	清水 貴弘・松田 佳之・今村 大地・吉村 昇・沼田 智昭・橋正 好行
[投稿]			
(1)	自動車用高圧水素容器の安全性評価	2012年7月 自動車技術	榊田 明宏(日産自動車), 藤本 佳夫・山本 修(トヨタ自動車), 植木 芳治・宮川 一夫(本田技研), 江口 徹(スズキ), 福本 紀(JARI)
(2)	ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車	2012年8月 自動車技術 Vol.66, No.8	黒川 陽弘・矢野 勝・堀口 眞
(3)	リチウムイオン電池搭載車両の火災試験	2012年12月 火災(日本火災学会誌)	高橋 昌志
(4)	水素燃料自動車の火災安全への取り組み	2012年12月 火災(日本火災学会誌) Vol.62, No.6	田村 陽介
《ITS》 [講演]			

(1)	自動車の電子化・知能化と機能安全規格について	2012年4月 ICガイドブック2012年度版 出版記念講演	森田 康裕
(2)	東京モーターショー2011 日本自動車研究所 自動運転省エネ自動車の出展概要	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会 カーロボティクスフォーラム	三島 康之・北村 高志
(3)	Path Following における操舵制御ゲインのセルフチューニング	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	杉町 敏之・深尾 隆則(神戸大学), 鈴木 儀匡・河島 宏紀(JARI)
(4)	自動隊列走行制御に向けたトラックの重量および重心位置推定	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	李 昇勇(東京大学), 安芸 雅彦・大堀 真敬・中野 公彦・山邊 茂之・須田 義大(東京大生産技術研究所) 石坂 宏幸・鈴木 儀匡(JARI)
(5)	自動隊列走行制御に向けた大型トラックの急制動試験による安全性評価	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	安藝 雅彦・中野 公彦・須田 義大(東京大生産技術研究所), 石坂 宏幸・鈴木 儀匡(JARI)
(6)	機能安全を切り口としたソフトウェア品質改善文化構築について	2012年6月 日科技連:SQiP 研究会	小谷田 一詞
(7)	欧米における ITS の研究開発と標準化動向の概要	2012年7月 日本弁理士会技術標準委員会	香月 伸一
(8)	ISO26262 解説書の展開	2012年7月 JARI 共同研究 WG	金子 貴信・森田 康裕
(9)	”SPICE activity is 1-st step to ISO2626 ”と、JARI が推進する”All Japan ”活動紹介	2012年9月 MONOist 「まだ間に合う！ ISO26262 に準拠せよ」 ～プロセス改善から始める機能安全対応～	小谷田 一詞
(10)	自動隊列走行車両の安全性向上のためのブレーキ開発	2012年9月 機械学会年次大会	須田 義大・安藝 雅彦・中野 公彦(東京大学), 鈴木 儀匡・石坂 宏幸(JARI)
(11)	自動車の電子化の展望 ～ECU やセンサ、通信に求められる高信頼化と高機能化～	2012年10月 IT・エレクトロニクス総合展 CEATEC・JAPAN 2012	香月 伸一
(12)	路面カントおよび曲率を考慮した自動運転トラックの横運動モデル	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	初山 富士男(日本大学), 鈴木 儀匡(JARI), 金子 哲也(大阪産業大学), 栗谷川 幸代・景山 一郎(日本大学)
(13)	The Automated Truck Platoon on Energy ITS project	2012年11月 イラコ会議招待講演	青木 啓二
(14)	協調走行自動運転に向けた研究開発	2012年11月 NEDO 省エネフォーラム	青木 啓二
(15)	サステナブルなクルマ社会とその具体的な事例紹介	2012年11月 第31回エレクトロセラミックスセミナー	森田 康裕

(16)	乗用車の ASIL 導出事例	2012 年 11 月 ISO26262WG	金子 貴信・森田 康裕
(17)	エネルギーITS 推進事業(NEDO)「協調走行(自動運転)に向けた研究開発」の概要	2012 年 12 月 ITS 実証実験説明会	野本 和則
(18)	自動車電子技術の動向	2013 年 1 月 自動車技術	香月 伸一
(19)	ISO TC204 における車両インタフェース標準化動向	2013 年 3 月 Web と車の検討会 第3回検討会	伊藤 寛
[投稿]			
(1)	自動隊列走行におけるレーザレーダの活用	2012 年 6 月 光技術コンタクト	山田 善之
(2)	安全文化醸成に向けた JARI が推進する機能安全活動	2012 年 9 月 10th Workshop on Critical Software System(10th WOCS)	小谷田 一詞
(3)	省エネ速度パターンでの自動運転による燃費改善効果	2012 年 10 月 いすゞ技報 124 号(10月号)	鵜川洋(いすゞ中研), 三島 康之・北村 高志(JARI)
(4)	最新の自動車技術に関する JARI の取り組み	2012 年 11 月 道路建設	森田 康裕
(5)	自動運転・隊列走行技術の研究開発	2013 年 2 月 自動車技術 Vol.67, No.2	鈴木 儀匡・河島 宏紀・青木 啓二・森田 康裕
《予防安全》			
[論文]			
(1)	前方車両衝突防止支援システムの効果予測 -危険の予期が低いドライバの衝突予知警報に対する反応特性-	2012 年 5 月 自動車技術会論文集 Vol.43, No.3, 2012	本間 亮平・菊地 一範・若杉 貴志(JARI), 田坂 寿康(自工会), 吉田 傑(自工会)
(2)	思い込みが生じたドライバの安全運転情報の受け止め方に関する考察	2013 年 3 月 自動車技術会 論文集 Vol.44, No.2	本間 亮平・大谷 亮
[講演]			
(1)	カメラ・モニタシステムの車線変更場面における検討	2012 年 5 月 自動車技術会 2012 年春季大会	細川 崇・橋本 博(JARI), 美記陽之介(自工会)
(2)	ペダル操作性に影響を与える人間特性に関する考察	2012 年 5 月 自動車技術会 2012 年春季大会	安部 原也・早野 公郎(JARI), 吉田 智幸・福井利尚・江部和俊・木村賢治(トヨタ自動車)
(3)	漫然運転状態検出の可能性に関する実験的考察	2012 年 5 月 自動車技術会 2012 年春季大会	菊地 一範・本間 亮平・若杉 貴志(JARI), グエン ヴァン クイ フン・岡村宏樹(トヨタ自動車)
(4)	ニアミス再現実験による車両対歩行者事故の防止方策に関する研究 -注意喚起情報の提供タイミングが横断歩行者の認知能力に及ぼす影響-	2012 年 5 月 自動車技術会 2012 年春季大会	内田 信行・田川 傑(JARI), 持田 勤(自工会)

(5)	ドライブレコーダのフィールド走行データによる車両対歩行者事故の要因分析	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	川越 麻生・内田 信行(JARI), 持田 勤(自工会), Bärghman Jonas(チャルマース工科大学)
(6)	小学校における自転車安全運転教育の有用性検討ー児童の態度および認知の変化についてー	2012年6月 日本交通心理学会第77回大会	大谷 亮・岡田 和未・橋本 博・小林 隆・岡野 玲子
(7)	見通し条件が異なる交差点におけるドライバの主観評価および運転行動	2012年6月 日本交通心理学会第77回大会	本間 亮平
(8)	児童の学齢段階に応じた体系的交通安全教育の実践と研究	2012年6月 第48回日本交通科学協議会学術講演会	大谷 亮・橋本 博・小林 隆・岡田 和未・岡野 玲子
(9)	小学校児童の横断行動に関する検討ー観察調査に基づく交通安全教育の内容に関する考察ー	2012年9月 日本応用心理学会第79回大会	大谷 亮
(10)	インフラ協調安全運転支援システムの表示インターフェイスに関する検討(第5報)ー複数の情報が提供された場合の視聴覚表示の呈示方法	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	大谷 亮・江上 嘉典・岩城 亮(JARI), 中村之信(自工会)
(11)	思い込みが生じたドライバの安全運転情報の受け止め方に関する考察	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	本間 亮平・大谷 亮
(12)	交通事故防止対策研究の現状	2012年10月 日本産業労働交通眼科学会	内田 信行
(13)	集団登下校時の事故を想定した高学年児童向けの交通安全教育ー小学校における交通安全リーダー育成の試みー	2012年11月 日本安全教育学会第13回大阪大会	大谷 亮・岡田 和未・橋本 博・小林 隆・岡野 玲子
(14)	追従運転時における車間時間の違いによる認知的ディストラクションへの影響と追突警報の効果	2012年11月 計測自動制御学会システム情報部門学術講演会	安部 原也(JARI), 伊藤 誠(筑波大学), 山村 智弘(日産自動車)
(15)	ニアミスデータを利用した危険場面再現と事故防止対策の検討	2012年11月 ドライブレコーダーシンポジウム「ドラブリ2012」	内田 信行
[投稿]			
(1)	安全運転は正しい運転姿勢から 姿勢調整装置の適切な活用を普及 ～自工会が運転姿勢に関する調査を実施～	2012年10月 自動車販売 Vol.50, No.11	橋本 博・鈴木 崇(JARI), 西山淳一(自工会)
《衝突安全》			
[論文]			
(1)	シミュレーションによる歩行者事故の解析ー制動条件が歩行者の飛翔距離に及ぼす影響	2012年12月 日本交通科学協議会誌 Vol.12, No.1	福山 慶介・松川 不二夫, 一色 孝廣・谷村 幹生・面田 雄一・山崎 邦夫
(2)	追突事故分析からみた頸部傷害指標の妥当性検討	2013年3月 自動車技術会 論文集 Vol.44, No.2	中嶋 太一・山崎 邦夫・小野 古志郎(JARI), 澤田 正英・角谷 佳治(自工会)

[講演]			
(1)	ブレーキ制動を伴う衝撃実験におけるモータライズドシートベルトの乗員保護効果に関する検討	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	伊藤 大輔・江島 晋・加藤 良祐・鮎川 佳弘・伊藤 久雄(JARI), 阿藤 忠之・木村隆章(タカタ)
(2)	BioRID-II ダミーにおける校正試験方法の妥当性検討	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	中嶋 太一・山崎 邦夫・小野 古志郎(JARI), 澤田 正英・角谷 佳治(自工会)
(3)	追突事故分析からみた頸部傷害指標の妥当性検討	2012年5月 自動車技術会 2012年春季大会	中嶋 太一・山崎 邦夫・小野 古志郎(JARI), 澤田 正英・角谷 佳治(自工会)
(4)	医療画像をベースとしたモーフォロジー解析による人体胸郭構造のモデル化手法に関する一考察	2012年6月 第48回日本交通科学協議会総会・学術講演会	江島 晋・三上 耕司・高山 晋一・加藤 良祐
(5)	日本における医工連携事故例調査の取り組みの現状と課題	2012年6月 第48回日本交通科学協議会総会・学術講演会	高山 晋一(JARI), 大橋秀幸 (ITARDA), 三上 耕司・江島 晋・小野 古志郎(JARI)
(6)	シミュレーションによる歩行者事故の解析ー車両前面形状が歩行者の飛翔距離に及ぼす影響	2012年6月 第48回 日本交通科学協議会総会・学術講演会	福山 慶介・山崎 邦夫・松川 不二夫
(7)	転倒時の頭部外傷発生予防に効果的な頭部保護帽の開発	2012年10月 転倒予防医学研究会 第9回研究集会	穴田 賢二・鴻巣 敦宏・一色 孝廣 (JARI), 森 久見子(特殊衣料), 森田 敏昭(東京造形大学), 吉成 哲(北海道立総合研究機構)
(8)	ドライブレコーダデータからの挙動計測可能性の検討	2012年10月 自動車技術会 2012年秋季大会	今長 久・穴田 賢二(JARI), 林 豊洋・榎田 修一(九州工業大学)
(9)	安全性と快適性を両立した頭部保護帽の開発	2012年11月 生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会 2012	穴田 賢二・鴻巣 敦宏・一色 孝廣 (JARI), 森 久見子(特殊衣料), 森田 敏昭(東京造形大学), 吉成 哲(北海道立総合研究機構)
[投稿]			
(1)	車両からの救助方法(第3回)「スプリングブレーキが作動した場合の対処方法」	2012年4月 月刊消防	鮎川 佳弘
(2)	車両からの救助方法(第4回)「トラックのドア開放方法」	2012年5月 月刊消防	鮎川 佳弘
(3)	車両からの救助方法(第5回)「室内拡張前の工夫」	2012年6月 月刊消防	鮎川 佳弘
(4)	車両からの救助方法(第6回)「前面衝突した大型トラックの室内拡張方法」	2012年7月 月刊消防	鮎川 佳弘
(5)	車両からの救助方法(第7回)「前面衝突した大型トラックの乗員の救助方法」	2012年8月 月刊消防	鮎川 佳弘

(6)	車両からの救助方法(第8回)「大型トラックへの乗用車の潜り込み事故の救助方法」	2012年9月 月刊消防	鮎川 佳弘
(7)	車両からの救助方法(第9回)「多重衝突事故の救助訓練と注意点」	2012年10月 月刊消防	鮎川 佳弘
(8)	高性能 FRP 製クラッシュボックスの検討	2012年10月 いすゞ技報	小池 朝夫(いすゞ中研), 横山 敦士(京都工芸繊維大学), 鮎川 佳弘(JARI), 川村 浩司(QPCJ), 大平 博道(JSOL), 秋田 麗佳(伊藤忠テクノソリューションズ)
(9)	志願者を用いた人体傷害発生メカニズム解明に向けた取り組み	2012年11月 Journal of the Society of Biomechanics Vol.36 No.4	江島 晋
(10)	車両からの救助方法(第10回)「バス横転事故の救助(多数傷病者への対応)」	2012年11月 月刊消防	鮎川 佳弘
(11)	車両からの救助方法(第11回)「バス横転事故の救助(車体と路面との間に挟まれた乗客の救助)」	2012年12月 月刊消防	鮎川 佳弘
(12)	車両からの救助方法(第12回)「欧州における交通事故救助の取組み(これからの救助方法)」	2013年1月 月刊消防	鮎川 佳弘
《その他》			
[論文]			
(1)	自動車利用で評価する税制の影響ー国際比較と統計分析ー	2013年2月 グローバルイゼーションの中のアジア	廣田 恵子(JARI), 鹿島茂(中央大学)
[講演]			
(1)	生活支援ロボットの走行安定性試験方法	2012年9月 第30回日本ロボット学会学術講演会	小口誠・神保浩之・小林隆・藤川達夫
(2)	人とロボットの共生環境での傷害発生リスクに関する研究	2012年9月 第30回日本ロボット学会学術講演会	松浦弘幸(長寿研), 玉川雅章(九工大学), 中野正博・山中真(純真大学), 行正徹(産医大学), 久保田怜・石川耕介・松崎照美・近藤理恵・伊藤安海・根本哲也(長寿研), 久保田正美(JARI)
(3)	人体の衝突・転倒時の損傷評価に関する基礎的研究	2012年9月 第30回日本ロボット学会学術講演会	玉川雅章(九工大学), 松浦弘幸(長寿研), 中野正博(純真大学), 行正徹(産医大学), 山中真(純真大学), 久保田正美(JARI)
(4)	生活支援モビリティロボットの走行安定性試験方法	2012年11月 生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会	小口誠・神保浩之・小林隆・藤川達夫
(5)	生活支援モビリティの衝突時安全性の評価例	2012年11月 生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会	藤川達夫・久保田正美(JARI), 山田陽滋(名古屋大学), 池田博康(労働安全衛生総合研究所)

(6)	パーソナルケアロボットのための安全規格 ISO 13482 の動向	2012年11月 日本ロボット学会 第74回ロボット工学セミナー「サービスロボットの安全規格と開発プロセス」	藤川達夫
[投稿]			
(1)	「スキー,何が面白いの?」	2013年1月 自動車技術会関東支部 支部報「高翔」	石山 武
(2)	生活支援ロボットの安全性検証	2013年3月 ロボット工業会機関誌	藤川達夫

海外発表(48件)

発表題名	発表学会等	発表者名	
《環境／エネルギー》			
[講演]			
(1)	Comparison of receptor models using synthetic organic aerosol mass spectra	2012年9月 European Aerosol Conference 2012	萩野 浩之・森川 多津子
(2)	Cost-Effectiveness Analysis of CO2 reduction with Future technologies in Japanese Automobile Sector	2012年11月 FISITA World Automotive Congress 2012	金成 修一
(3)	Cost-Effectiveness Analysis of CO2 reduction with Future technologies in Japanese Automobile Sector	2013年2月 The APERC Annual Conference	金成 修一
《燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車》			
[論文]			
(1)	The Safety Evaluation Test of Lithium-Ion Batteries in Vehicles - Investigation of Overcharge Test Method -	2012年6月 ECS Transactions Vol. 41, No. 39	高橋 昌志・小松 和則・前田 清隆
(2)	Development and Characteristics of a Burner for Localized Fire Tests and an Evaluation of Those Fire Tests	2012年6月 SAE International Journal of Passenger Cars- Mechanical Systems	田村 陽介・高林 勝・竹内 正幸・大塚 宣明・中島 孝(JARI), 佐藤研二(東邦大学)
(3)	Influence of temperature and pressure on the fatigue strength of Type-3 compressed-hydrogen tanks	2012年6月 International Journal of Hydrogen Energy	富岡 純一・木口 和博・田村 陽介・三石 洋之
(4)	Development of a technique for in situ high temperature TEM observation of catalysts in a highly moisturized air atmosphere	2012年8月 Journal of Electron Microscopy, 61(4)	矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 清水 貴弘・今村 大地(JARI), 渡部明・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)

(5)	Structural change of the Pt/C electrocatalyst in humidified air observed by in situ TEM	2012年10月 ECS Transactions, 50(2)	清水 貴弘・今村 大地(JARI), 矢口 紀恵・金村崇・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(6)	Verification of Durability Test Methods of an MEA for Automotive Application	2012年10月 PRiME 2012 (222nd Meeting of ECS) / ECS Transaction	橋正 好行・清水 貴弘・松田 佳之・今村 大地・赤井 泉明
[講演]			
(1)	A Validity of Low Ventilation Supposing Accident Processing with Hydrogen Leakage from Hydrogen-fuelled Vehicle	2012年4月 SAE 2013 World Congress	田村 陽介・大塚 宣明・竹内 正幸
(2)	Development and Characteristics of a Burner for Localized Fire Tests and Evaluation of Those Fire Tests	2012年4月 SAE 2012 World Congress	田村 陽介, 高林 勝, 大塚 宣明, 竹内 正幸
(3)	Development of Open-Source HEV Model for HILS Certification Test Method	2012年5月 EVS26	黒川 陽弘・森田 賢治
(4)	Combustion Behavior of Lithium-ion Batteries for Fire Test	2012年6月 The 16th International Meeting on Lithium Batteries Meeting Abstracts	高橋 昌志・小松 和則・前田 清隆
(5)	Investigation of High-Temperature Endurance and Dewing Tests for Lithium-Ion Batteries in Vehicles	2012年6月 IMLB 2012	前田 清隆・高橋 昌志・小松 和則
(6)	Development of an in-situ high temperature-high humidity TEM observation technique and its application to the analysis of catalyst degradation mechanism	2012年7月 Microscopy & Microanalysis 2012 Meeting	矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 清水 貴弘・今村 大地(JARI), 渡部明・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(7)	Durability of an MEA of polymer electrolyte fuel cells for automotive application: Start/stop cycle and load cycle tests	2012年8月 第6回国際燃料電池ワークショップ 2012	清水 貴弘・木口 和博・沼田 智昭・吉村 昇・松田 佳之・今村 大地・橋正 好行
(8)	Determining Hydrogen Concentration in a Vehicle after a Collision Test	2012年9月 Fires In Vehicles	田村 陽介・大塚 宣明・竹内 正幸・三石 洋之
(9)	MEA Durability of polymer electrolyte fuel cells for automotive application	2012年10月 PRiME 2012 (222nd Meeting of ECS)	橋正 好行・清水 貴弘・松田 佳之・今村 大地・赤井 泉明
(10)	Effects of Atmospheric Trace Species on Polymer Electrolyte Fuel Cells Performance	2012年10月 PRiME2012 (222nd ECS Meeting (2012年電気化学秋季大会との共催))	今村 大地・大野 和之
(11)	Structural change of the Pt/C electrocatalyst in humidified air observed by in situ TEM	2012年10月 2012年電気化学日米合同大会	清水 貴弘・今村 大地(JARI), 矢口 紀恵・金村崇・上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)

(12)	Investigation of high-temperature endurance test for lithium-ion batteries in vehicles	2012年10月 222nd ECS Meeting	前田 清隆・高橋 昌志・小松 和則
(13)	Recent and Futrure Research of Hydrogen Fueling Test in JARI	2012年11月 2012 Fuel Cell Seminar & Exposition	松野 優・高橋 文夫・大塚 宣明・富岡 純一・田村 陽介・三石 洋之
(14)	Influences of Impurities in Hydrogen on Fuel Cell Performance	2012年11月 15th International Symposium on Technology for Next Generation Vehicle	赤井 泉明・松田 佳之・清水 貴弘・今村 大地・橋正 好行
(15)	電動車両の国際標準化における安全性試験の動向について	2012年11月 第4回電動車両標準化国際フォーラム	富岡 秀徳
(16)	JARIにおける標準化活動概要	2012年11月 JARI・中国汽車技術研究中心第1回技術交流会	木戸 彰彦
(17)	In situ degradation analysis of Nafion-coated Pt/C electrocatalyst in humidified air	2012年11月 2012 MRS Fall Meeting & Exhibit	清水 貴弘・今村 大地・吉村 昇(JARI), 矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 金村崇(日立ハイテックマニファクチャ&サービス), 上野武夫(日立ハイテクノロジーズ)
(18)	Degradation factors in cycle and calendar aging of lithium ion batteries	2013年2月 AABC(Advanced Automotive Battery Conference) 2013	今村 大地・明神 正雄・島田 佳祐・前田 安正・森田 賢治(JARI), 田中謙司(東京大学), 三枝 省五(JARI)
《ITS》			
[講演]			
(1)	Evaluation of safety of automatic platoon-driving with improved brake system	2012年10月 ITS World congress	安藝 雅彦・中野 公彦・須田 義大・Rencheng ZHENG・Seung-Yong Lee(東京大学), 石坂 宏幸・鈴木 儀匡(JARI)
(2)	Current activities on Energy ITS for the Automated Track the Platoon	2012年10月 SIS21 Fully automated platoon system セッション	青木 啓二
《予防安全》			
[論文]			
(1)	Driver behavior in car-to-pedestrian incidents: An application of the Driving Reliability and Error Analysis Method (DREAM)	2013年1月 Accident Analysis & Prevention	Azra Habibovic(Chalmers 工科大学), 内田 信行(JARI), Emma Tivesten・Jonas Bargman・Mikael Ljung Aust(Chalmers 工科大学)
[講演]			
(1)	Assessment Method of Effectiveness of Passenger Seat Belt Reminder	2012年4月 SAE 2012 World Congress	赤松 幹之(産総研), 橋本 博(JARI), 島岡 信次(自工会)
《衝突安全》			

【論文】			
(1)	Integrated Accident Research System with Extended Medical and Engineering Network aimed at making Japan the Safest Automobile Society in the World	2012年9月 IRCOBI Conference	小野 古志郎・三上 耕司・高山 晋一・江島 晋(JARI), 大橋(ITARDA)
(2)	Effects of Pre-impact Swerving/Steering on Physical Motion of the Volunteer in the Low-Speed Side-impact Sled Test	2012年9月 IRCOBI Conference 2012	江島 晋・伊藤 大輔・佐藤 房子・三上 耕司・小野 古志郎(JARI), 椎名 逸雄(水戸共同病院), 金岡恒治(早稲田 大学院スポーツ科学院)
【講演】			
(1)	Study on Impact Response (Injury Value) Variation Factors for BioRID-II Dummies	2011年6月 22nd International Technical Conference on the Enhanced Safety of vehicles (ESV2011)	中嶋 太一・山崎 邦夫・小野 古志郎(JARI), 澤田 正英(自工会)
(2)	Japan Towards Being the Safest Automobile Society in the World	2012年9月 2012 ASC Annual General Meeting	小野 古志郎
(3)	Reanalysis of monkey head concussion experiment data using a novel monkey finite element model to develop brain tissue injury reference values	2012年9月 IRCOBI Conference 2012	アントナ ハコボ(JARI), Johan Davidsson(Chalmers University of Technology), 江島 晋・小野 古志郎(JARI)
(4)	Calibration Test Method for enhancing the BioRID-II Dummy's Repeatability and Reproducibility	2012年9月 IRCOBI Conference 2012	中嶋 太一・山崎 邦夫・小野 古志郎(JARI), 澤田 正英・角谷 佳治(自工会)
(5)	What are the necessary actions for safer road traffic conditions based on the population variety of road users?	2012年10月 Symposium on Population Variability and Occupant Factors in Crash Injury	小野 古志郎
(6)	Mild Traumatic Brain Injury Criteria and thresholds: Experimental data and reconstruction of these using new mathematical models	2012年10月 Fortieth International Workshop on Human Subjects for Biomechanical Research	アントナ ハコボ・江島 晋・小野 古志郎(JARI), Johan Davidsson(Chalmers University of Technology), Marten Risling(Karolinska Institute)
(7)	Development of high performance frp crush box	2012年11月 FISITA 2012 World Automotive Congress	秋田麗佳(伊藤忠テクノソリューションズ), 横山敦士(京都工芸繊維大学), 小池朝夫(いすゞ自動車), 川村浩司(QUADRANT), 鮎川 佳弘(JARI), 大平博道(日本総研ソリューションズ)
《その他》			
【講演】			
(1)	Functional Safety activities in Japan and JARI	2012年5月 VDA Automotive SYS Conference	大須賀 竜治(JARI), 小谷田 一詞(NTT DATA MSE)
(2)	Development of low noise pavement based on tire/road noise model	2012年8月 inter.noise 2012	藤川達夫・押野康夫, 橋秀樹(千葉工大学)
(3)	All Japan functional safety activities with a focus on JARI	2012年10月 ASPICE Automotive Conference	大須賀 竜治・小谷田 一詞

(4)	Empirical Approach to Assessing Foot Injury Level Resulting from being Run Over by a Mobile Robot	2012 年 10 月 The 7th International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems	久保田正美・藤川達夫
(5)	Evaluation of Injury Level and Probability for Risk Assessment of Mobile Robots	2012 年 10 月 The 7th International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems	藤川達夫・久保田正美(JARI), 山田陽滋(名古屋大学), 池田博康(労働安全衛生総合研究所)
(6)	Functional Safety activities in Japan and JARI	2012 年 11 月 Safetronic 2012	大須賀 竜治・小谷田 一詞
(7)	Requested reliability of dynamic mechanical measurement in mobility, from automobile to service robot	2012 年 11 月 BIPM Workshop on Challenges in Metrology for Dynamic Measurement	藤川達夫
(8)	Functional Safety (ISO26262)	2013 年 2 月 Workshop on ISO 26262 basic course	大須賀 竜治

2.3 平成 24 年度 学会表彰の受賞者一覧

表彰名	受賞者	対象名
大気環境学会論文賞	森川多津子（共著）	「三次元大気シミュレーションによる 2005 年度日本三大都市圏 PM2.5 濃度に対する国内発生源・越境輸送の感度解析」
転倒予防医学研究会 学術部門奨励賞	穴田賢二, 鴻巣敦宏, 一色孝廣（共同）	転倒時の頭部外傷発生予防に効果的な頭部保護帽の開発

2.4 平成 24 年度産業財産権出願一覧

出願番号	発明者	発明の名称
特願 2013-049067	内田 信行, 他	車両用危険場面再現装置、およびその使用方法

2.5 平成 24 年度実用新案権実施一覧

実用新案権の実施	発明者
燃料電池 JARI 標準セル	渡辺 正五, 橋正 好行

2.6 平成 24 年度著作権所有主要コンピュータソフトウェア頒布一覧

プログラム著作物の名称	発明者
JARI 歩行者モデル	鴻巣 敦宏, 他

3.1 平成 24 年度テストコース外部利用者使用状況

(単位：千円)

使 用 区 分		実 績
業 種 別	国内自動車(二輪・四輪)関係	629,378
	海外自動車関係	5,467
	車体関係	21,578
	部品関係	24,410
	タイヤ関係	19,844
	その他	34,629
	合 計	735,306
テ ス ト コ ー ス 別	高速周回路	387,492
	総合試験路	105,409
	その他	242,405
	合 計	735,306

4.1 平成 24 年度技術刊行物一覧

区 分	題 名	発行年月
報告書	ITS 産業動向に関する調査研究報告書 －ITS 産業の最前線と市場予測 2012－	平成 24 年 5 月
年 報	日本自動車研究所 平成 23 年度 年報	平成 24 年 8 月
年 報	2012 JARI 研究論文集	平成 24 年 8 月
所 報	JARI Research Journal 2012 年 4 月～2013 年 3 月 (研究速報、技術資料など 58 編を JARI ウェブサイトに掲載)	平成 24 年 4 月～ 平成 25 年 3 月

4.2 平成 24 年度蔵書、資料保有状況

区 分	取得件数	累 計
単行本 (和書)	148 冊	12,307 冊
単行本 (洋書)	10 冊	2,189 冊
国内雑誌	20 誌	—
外国雑誌	3 誌	—
報告書等	230 点	30,052 点

4.3 平成 24 年度寄付金実績

区 分	実 績(千円)
一般社団法人日本自動車工業会会員	24,000

4.4 平成 24 年度主要設備・工事等一覧

件 名	主 な 内 容
研究設備、機器の導入、更新	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車載式データ収録装置の導入 32ch×1、64ch×1、128ch×2 耐G性能：100G サンプリグ周波数：100kHz AD分解能：16bit ・ JARI-ARV（拡張現実実験車）の導入 JARI-ARV 用車載システム JARI-ARV 用シナリオ開発システム ・ 恒温恒湿槽の導入 -30℃～80℃／10%～95% 2300W×1970D×2100H ・ 蓄電池材料微細構造観察装置の導入 冷陰極電界放出型走査電子顕微鏡 雰囲気遮断対応試料交換装置 エネルギー分散型X線分析装置 ・ Hy-SEF 居室建設工事 事務棟 建物 : 軽量鉄骨プレハブ構造 190 m² 居室、会議室（2室）、男女トイレ、 男女更衣室、給湯室 準備棟 建物 : 鉄骨造 80 m² 付属設備：二柱リフト、ホイストクレーン

件 名	主 な 内 容
主要工事等整備	<ul style="list-style-type: none"> • 高圧ケーブル更新 1 期工事 老朽化した高圧ケーブルの更新 更新範囲：エンジン研究棟、タイヤ研究棟、 環境実験棟、2 号エンジン棟、 充放電試験室、HERP 棟、 燃料電池研究棟 • 本館居室改造工事 1 期工事：本館 2 階図書室の居室化工事 2 期工事：本館 2 階間仕切り移設 本館 3 階会議室間仕切り、 ダイナミックス棟間会議室仕切り工事 3 期工事：本館 4 階の役員室間仕切り工事 EWS 室機能移転に伴うネットワーク工事： ダイナミックス棟 EWS 室～ 本館 3 階旧電算室の光ケーブル敷設 • PC、プリンター更新（リース） PC 465 台 プリンター 18 台 複合機 13 台

参考：平成 24 年度正味財産増減計算書（予算決算比較表）

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
1. 一般正味財産増減の部			
(1) 経常増減の部			
1) 経常収益			
①基本財産運用益	21,450,000	22,257,861	△ 807,861
②特定資産運用益	56,570,000	63,651,731	△ 7,081,731
③受取賛助員会費	111,300,000	106,755,789	4,544,211
④事業収益	5,721,320,000	6,491,281,804	△ 769,961,804
・研究事業収益	4,281,120,000	5,047,719,664	△ 766,599,664
・施設貸出事業収益	749,250,000	778,618,855	△ 29,368,855
・認証事業収益	494,240,000	464,614,285	29,625,715
・J N X 事業収益	196,710,000	200,329,000	△ 3,619,000
⑤受取補助金	384,510,000	395,801,391	△ 11,291,391
・受取補助金	299,270,000	335,838,152	△ 36,568,152
・受取補助金振替額	85,240,000	59,963,239	25,276,761
⑥受取寄付金	24,000,000	24,000,000	0
⑦雑収益	119,360,000	122,439,545	△ 3,079,545
経常収益計	6,438,510,000	7,226,188,121	△ 787,678,121
2) 経常費用			
①事業費	7,167,010,000	7,137,781,578	29,228,422
・研究事業直接経費	1,313,690,000	1,463,139,082	△ 149,449,082
・事業人件費	2,859,230,000	2,855,742,706	3,487,294
・事業経費	1,452,180,000	1,251,546,671	200,633,329
・事業減価償却費	1,456,670,000	1,506,337,367	△ 49,667,367
・補助事業減価償却費	85,240,000	59,963,239	25,276,761
・事業除却費	0	1,052,513	△ 1,052,513
②管理費	369,400,000	420,326,060	△ 50,926,060
・人件費	145,280,000	144,467,230	812,770
・経費	179,310,000	250,838,836	△ 71,528,836
・減価償却費	22,750,000	18,108,600	4,641,400
・除却費	22,060,000	6,911,394	15,148,606
経常費用計	7,536,410,000	7,558,107,638	△ 21,697,638
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,097,900,000	△ 331,919,517	△ 765,980,483
・特定資産評価損益等	0	292,762,000	△ 292,762,000
評価損益等計	0	292,762,000	△ 292,762,000
当期経常増減額	△ 1,097,900,000	△ 39,157,517	△ 1,058,742,483
(2) 経常外増減の部			
1) 経常外収益			
①預り資産受贈益	0	75,072,206	△ 75,072,206
経常外収益計	0	75,072,206	△ 75,072,206
当期経常外増減額	0	75,072,206	△ 75,072,206
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,097,900,000	35,914,689	△ 1,133,814,689
法人税、住民税及び事業税	262,000	262,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,098,162,000	35,652,689	△ 1,133,814,689
一般正味財産期首残高	19,221,828,940	19,221,828,940	0
一般正味財産期末残高	18,123,666,940	19,257,481,629	△ 1,133,814,689
2. 指定正味財産増減の部			
①受取補助金	95,500,000	57,997,700	37,502,300
②一般正味財産への振替額	△ 85,240,000	△ 59,963,239	△ 25,276,761
当期指定正味財産増減額	10,260,000	△ 1,965,539	12,225,539
指定正味財産期首残高	197,763,886	197,763,886	0
指定正味財産期末残高	208,023,886	195,798,347	12,225,539
3. 正味財産期末残高	18,331,690,826	19,453,279,976	△ 1,121,589,150